



KIZUNA

資源の絆 ニュースレター

2022年 9月号 発行:独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

夏の短期プログラム開催

2022年8月22日から9月2日にかけて、資源の絆夏の短期プログラム「資源政策・経営コース」が開催されました。本プログラムは、大学での研究だけでは得ることができない、研修員の将来の鉱業行政・人材育成に必要な社会・経済分野の知見を獲得することを目的としています。今年は3年ぶりに東京にて対面での開催となり、16名の研修員が参加しました。また北海道大学、秋田大学、九州大学の日本人学生それぞれ1名がインターンとして参加し、研修の支援を行いました。

講師はJICA国際協力専門員細井義孝氏のカリキュラムにより、自身のほか、省庁、政府系機関、民間企業、大学から招き、研修員はそれぞれの専門家から鉱業、資源政策、経済、契約及び鉱業市場等多方面にわたる講義を受け、資源分野について幅広く学ぶことができました。講義後は研修員からたくさんの質問が挙げられ、講師と研修員双方活発な議論が行われました。また、日曜日には課外活動として足尾銅山跡と大谷資料館を訪問しました。

最終日には、大使館や政府系機関、民間企業を招待し、研修員が母国の鉱業に関するSWOT分析の結果について各自発表しました。閉会式ではJICA社会基盤部の田中部長からの挨拶の後、研修員の代表として九州大学のDenson Makwelaさん(21S/マラウイ)が謝辞を述べました。また、プログラムの最後に名刺交換会が行われ、参加者が情報交換を行い人脈を広げることができました。



講義



グループワーク

* プログラム参加年度・時期の総称 (例 21S:2021年の春【Spring】にプログラムに参加した研修員)



足尾銅山



修了式の様子

ようこそ 21A 絆生！～Mary Charles Moshi さん～

今月は、21A の Mary Charles Moshi さんをご紹介します。

Mary Charles Moshi

出身国: タンザニア

所属先: University of Dar es Salaam

受入大学: 秋田大学大学院国際資源学研究科 博士課程

研究テーマ: Temporal tectonic evolution of the Uluguru mountain, Tanzania



“

タンザニアでは、ダルエスサラーム大学の鉱山・地球科学部でアシスタントレクチャラーを務めています。大学では、地球科学を学ぶ学生を指導するのが私の主な仕事です。また、金属探査、環境問題、科学教育におけるジェンダー問題などに関する研究や公共事業も行っています。地球の地質学的な歴史の謎を解くことは、地球システムを理解する上で重要なだけでなく、持続可能な開発を行う上でも重要なことです。日本では、様々な研究手法や、自分の研究スキルを向上させる方法を学んでいきたいです。日本は先進国なので、特に鉱山管理、鉱山政策、安全問題の分野で、日本の社会経済開発戦略を探求し、学ぶことを楽しみにしています。

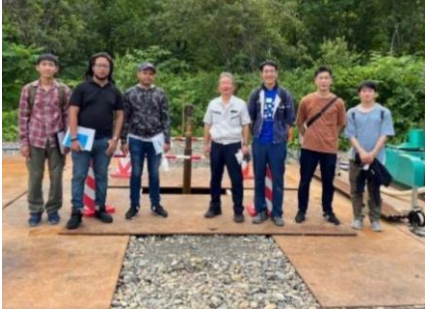
”

絆生達によるインターンシップ報告

九州大学 Seelae Phaisopha さん(20A、ラオス)、Benedict Ncube さん(21A、ジンバブエ)、Rathnak Tieng さん(21A、カンボジア)が、2022年8月8日～10日の3日間、NPO 法人地下資源イノベーションネットワークでのインターンシップに参加し、炭素回収・貯留(CCS)のパイロットプロジェクトの現場を訪問しました。3名の参加の様子と感想を紹介します。

インターンシップでは、石炭採掘、特に炭素回収・貯留 (CCS) の分野での私の考えをさらに広げられただけでなく、日本の石炭鉱業の専門家との関係構築もできました。さらに、異なる分野の専門家から学べたことも良い機会でした。このインターンシップで得た知識を、自国の石炭鉱業のために役立てたいと思います。(Rathnak Tieng)

地下石炭ガス化(UCG)は、石炭を燃焼させて抽出し、様々な製品を得る有効な方法であると思います。浅い炭層がなくなった後、地下炭鉱が採算に合わない場合 UCG が選択肢になるため、将来的には、我が国でも技術と経済性から UCG を検討する必要があると考えます。(Seelae Phaisopha)



CO2 噴出管



地下水位の測定



地震観測孔

UCG プロジェクトと CCS プロジェクトは、脱炭素時代の炭化水素資源開発を促進し、将来のエネルギー源として水素の大量利用を実現する、非常に革新的な技術だと思いました。(Benedict Ncube)



資源の絆ニュースレターについてのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

アジア科学教育経済発展機構
Eメール: kizuna@asiaseed.org
もしくは、
JICA 資源の絆アドバイザー 細井義孝
Eメール: Hosoi.Yoshitaka@jica.go.jp
hosoi.yoshitaka@amber.plala.or.jp